

地域資源を活かした町おこし

# 新野竹林コンサートの調べ



## ■自然に抱かれた町

新野町で地域資源である竹林の景観を活かした音楽イベント「新野竹林コンサート」を町の住民が開催している。町内外の人々の交流の場となり、好評を博している。

阿南市の南西部に位置する新野町は、四方を連山に囲まれた盆地で、面積の85パーセントは山地となっている。町を流れる桑野川の上流域には、県の天然記念物に指定されている淡水魚「オヤニラミ」が生息するなど自然豊かな土地だ。また、四国霊場第22番札所「平等寺」の門前町があり、かつては林業や商工業などで栄えた。特に周囲の山地には竹林が多く、タケノコの名産地として名高い。昭和57年頃にはタケノコの売上高は約8億円にものぼった。

しかし、少子高齢化や都市部への人口流出で、町の人口は減少の一途をたどり、現在3525人（7月末

日）で、最も多かった昭和22年の6947人から半減した。また、かつて盛んだった林業や農業は担い手の高齢化や後継者不足などで衰退している。それは農村地域の荒廃につながり、サルやイノシシ、シカなどの鳥獣の被害に度々襲われている。また、放置された土地は町の景観を害し、廃棄物などの不法投棄が後を絶たない。

そんな閉塞した町の現状を打開し、活気ある町を取り戻そうと、町の有志が立ち上がった。

## ■竹林を夢舞台に

竹林コンサートは平成27年4月から毎年春と秋に開催していて、今年の春の開催で5回目となった。会場となる竹林には、ため池を背景にステージが組まれていて、客席は竹林の傾斜を利用し、竹を使ったベンチが作られている。

毎回、町内外の演奏家12組ほどが合唱や民謡、流行曲などさまざまな演奏を披露する。開放感あふれる会場には歌声や音色が響き渡る。訪れた観客は演奏家の奏でる音色に聞き惚れて、至福のひとときを過ごしているようだ。

開催のきっかけは、新野町の枝川誠也さん（63歳）が、地域資源の竹を利用した音楽イベントを開催できないかと、当時の新野町商工会会長





①会場にさわやかなハーモニーを聴かせた「そう列車合唱団」 ②ギターとチェロのデュオ「北斎」 ③親子3世代バンド「たばこ屋ファミリー」 ④かくや姫のクワイアート ⑤臨場感あふれる観客席 ⑥手作りの看板 ⑦「新野高校音楽部」は流行曲を熱演 ⑧自然に根ざした音楽フィールドフォーク「APPOの会」 ⑨地元バンド「コレステロール・パンチョス」 ⑩物販コーナーでは特産品を販売

# 次回開催 新野竹林コンサート 2017秋

日時 10月29日(日) 10:00~16:00

入場無料

場所 畠山さん宅竹林 (駐車場から徒歩約5分)  
 駐車場 新野東小学校グラウンド (新野町是国37番地2)  
 ※車でお越しの方は、乗り合わせにご協力ください。

出演 新野東小学校、Dear Ukulele、ハーモニーそよ風、コレステロール・パンチョス、いのししバンド、ドラちゃん、ジャム缶、ルート178、パンドル、マミキミ、ひまわり、クレイジーブラザーズ、カマンベール jeeje.s など

物販 はたえだ直売所、黒川 彩魁企画、しいたけ侍、あかりカフェ、ちくがき屋など  
 ※フェイスブックページ「新野竹林コンサート」にて最新情報をご覧いただけます。

問い合わせは 新野竹林コンサート実行委員会 枝川 (☎090-7785-5040) へ



初開催の日。観客が来てくれるか不安だった。だが、ふたを開けてみると約300人もの方が来場し、大盛況となった。町内外から演奏家が集い、町に音楽が溢れた。

### 演奏者と観客が一体となる

同会メンバーなど10人で、一からコンサートの会場を作り始めた。竹を伐採し、重機で地ならし。また、竹材で土台からステージを組み立て、客席も作った。皆の力でなんと開催日までに夢舞台が完成し、開催にこぎつけた。

の青江徳訓さん(57歳)に相談したこと。二人は淡路島で行われている「かくや姫竹林コンサート」を視察したり、会場となる竹林を探したりと、コンサート開催の可能性を探った。会場は新野東小学校の東側にある畠山榮泰さんが所有する竹林の一部を借りることができた。西向きに開けた竹林は日当たりが良く、斜面はなだらか。県道やJR新野駅に近く交通のアクセスが良い理想的な場所だ。賛同者を募り、「新野地区まちづくり協議会」が主催する「たけのこまつり」の一環として開催が決定したのが、開催予定日の2カ月前だった。

町おこしは、一過性のものとしてせず継続し、町の文化として竹のように根を張ってこそ、そこからたくさん可能性が生まれるのではないかと。新野町の住民による町おこしへの挑戦はこれからも続いていく。

### 町の文化として根を張るまで

コンサート開催に向けて奔走した枝川さんは、「竹林コンサート」を思いついた時は、実現は困難かと思っただが、たくさんの方に助けてもらって開催にこぎつけ、また続けていられている。このようなお金にかえられない「人のつながり」が、人に感動を与えられるのだと思う」と語り、「町の若い世代や地域おこし協力隊員も手伝ってくれている。これからも、できる限り続けていきたい」と意気込む。

出演した地元のバンド「コレステロール・パンチョス」の福島康人さん(43歳・新野町)は、「竹林の中で気持ちよく演奏することができました。観客との距離が近く、一体になれるところが竹林コンサートの醍醐味ですね」とその魅力を語る。町を盛り上げていこうという取組だが、スタッフの皆さんも肩肘張らず楽しみながら活動しているようです。そこには居心地の良い時間が流れていた。